

主 題：感謝の人生・実践編：兄弟姉妹に対して5  
 聖書箇所：ローマ人への手紙 12章12節

主の恵みによって救われた信仰者一人ひとは、この主を誉め称えながら、この主に感謝を増しながら歩んで行く、そして、そのような歩みを皆さんも歩んでいってほしいと思います。パウロは私たちに、主に感謝をする生き方を具体的に教えてくれています。主に対する感謝はこのように現わしていくということを私たちに具体的に示しています。そのことを今まで私たちは学んで来ました。今日、私たちは続いて12節のみことばをがいっしょに見たいと思います。12節「望みを抱いて喜び、患難に耐え、絶えず祈りに励みなさい。」と記されています。今日は、ここから「絶えず祈りに励みなさい。」というみことばを見て行きます。パウロは明らかに、ここで祈りについて教えていますから、私たちは「祈り」についてみことばを学んで行きます。

### ☆愛の実践

#### 8. 絶えず祈りに励みなさい

##### A. 祈りの重要性： どうして祈りの人になることが重要なのか？

パウロはこのみことばを通して私たちにその答えを与えています。

##### 1. 主の命令だから

最初に彼が教えることは、祈りは「主の命令だから」大切だということです。もちろん、私たちはこの命令に従う者として生まれ変わりました。そして、主が私たちに祈ることを命じています。コロサイ人への手紙4：2には「目をさまして、感謝をもって、たゆみなく祈りなさい。」とあり、また、Iテサロニケ5：17にも「絶えず祈りなさい。」とあります。このようにみことばを見ると、確かに、主は私たちに「祈ること」を命じておられます。今日のテキストを見ると「絶えず祈りに励みなさい。」とパウロは言っています。「絶えず…励みなさい。」が一つの動詞なのですが、これは「揺るがないで忍耐強く行ないなさい、それに専念しなさい。」という意味があります。また、辞書を見ると「献身的に、何かに没頭しなさい」という意味をもったことばです。

#### ◎祈りの実践

ですから、12節でパウロが祈りに関して命じていることは「祈りに専念しなさい、祈りに没頭しなさい」です。しかも、現在形が使われているのは、そのように歩み続けて行きなさいということをお教えるのです。もちろん、これは「一日中、ただ祈りさえしておけばいい」と言っているのではないことは明らかです。パウロはここで「祈りに専念するように」と言うのです。言い方を変えるなら、祈りに時間を費やす人、「祈りの人」でありなさい、どんなときでも祈る人になりなさいと、それがパウロが言わんとしていることです。

**パウロ**：間違いなく、パウロはそういう人物でした。なぜなら、彼の歩みの模範だったイエスがそのように歩んだからです。

**主イエス**：確かに、イエス・キリストは神であり、イエス・キリストは人でした。その主イエス・キリストご自身は、祈りに時間を割いておられました。マタイ14：23には「群衆を帰したあとで、祈るために、ひとりで山に登られた。夕方になったが、まだそこに、ひとりでおられた。」と記されています。同じことが、マルコ6：46に「それから、群衆に別れ、祈るために、そこを去って山のほうに向かわれた。」とあり、ヨハネ6：15にも「そこで、イエスは、人々が自分を王とするために、むりやりに連れて行こうとしているのを知って、ただひとり、また山に退かれた。」とあります。祈るためにひとりで山に登られたということです。ひとりでこのように祈りのときをおもちになったのです。また、ルカの福音書6：12には「このころ、イエスは祈るために山に行き、神に祈りながら夜を明かされた。」とあります。夜を徹して祈っておられたことが記されています。また、ルカ9：28には「これらの教えがあつてから八日ほどして、イエスは、ペテロとヨハネとヤコブとを連れて、祈るために、山に登られた。」とあります。

ですから、確かに、みことばは私たちに、イエスが「祈りの人」であった、絶えず祈っておられたことを教えています。ですから、パウロはその模範に倣い、そして、私たちにも同じことを命じるのです。「祈りの人でありなさい」、「どんな時でも祈る人でありなさい」と言います。確かに、旧約聖書を見ても新約聖書を見ても、私たちの信仰の勇者たちはみな「祈りの人」でした。

**ダニエル**：今から30日間、ダリヨス王以外のものを拜んではならないという禁令が出たとき、ダニエルはいつもと同じように祈ったと記されています。ダニエル書6：10「ダニエルは、その文書の署名がさ

れたことを知って自分の家に帰った。——彼の屋上の部屋の窓はエルサレムに向かってあいていた。——彼は、いつものように、日に三度、ひざまずき、彼の神の前に祈り、感謝していた。」。その結果、彼はライオンの穴に投げ込まれることになりませんが、このような禁令が出されても、真の神への祈りを止めることはなかったのです。

**ネヘミヤ**：また、ネヘミヤはエルサレムの荒廃した様子を聞いて涙を流し、数日間、祈り続けたとネヘミヤ書の中に記されています。1：4「私はこのことばを聞いたとき、すわって泣き、数日の間、喪に服し、断食して天の神の前に祈って、」。

このように、彼らは主の前に真剣に立って主に祈り続けたのです。また、初代教会の人たちもそうでした。

**初代教会の人々**：彼らは個人的に祈り、そして、兄弟姉妹たちと祈り合っている様子が「使徒の働き」の中に記されています。1：14「この人たちは、婦人たちやイエスの母マリヤ、およびイエスの兄弟たちとともに、みな心を合わせ、祈りに専念していた。」と、ともに集まって心を合わせて祈っていたその様子が浮かんで来るような感じがします。また、使徒2：42には「そして、彼らは使徒たちの教えを堅く守り、交わりをし、パンを裂き、祈りをしていた。」とあります。このように上げるならたくさん出て来ます。

**チャレンジ**：あなたは「祈りの人」ですか？

恐らく、皆さんはパウロが教えようとしたことはもう十分お分かりになったと思います。「祈りの人になりなさい」と神はそのことを命じておられるのです。そこで私たちが考えなければいけないことは「私は祈りの人かどうか」です。あなたはパウロが命じているような「祈りの人」ですか？どんなときにも祈る人ですか？個人的に、また、兄弟姉妹が集まったら必ず祈り合う、そのような歩みをしているかどうか？「どんなときにも、だれといようと祈る人、そのような人でありなさい」とパウロは私たちに教えているのです。

「祈りの大切さ」を私たちは見っていますが、祈りはその人の霊性を反映しています。祈りはその人の信仰の度合いを反映するのです。E・M・バウンズはこのように言います。「僅かばかりの短い、また、薄弱な祈りは、常に、低級な霊的状态のしるしである。優れたクリスチャンは祈りにおいて優れていた。」と。また、このようにも言っています。「祈りがなくてはクリスチャンの生涯はうるわしさと優しさを失い、冷淡、形式的であり、そして、いのちを失う。」と。つまり、彼は祈りがいかに私たちの生活において大切なものか、そのことを伝えるのです。

確かに、我々の信仰生活を振り返ったときに、祈りが少ないとき、ときには祈りが全くないときの私たちの信仰の歩みは非常に弱いと思いませんか？裏返せば、我々の信仰が弱かったときの祈りの生活の貧しさは、それほど祈っていなかったことが原因だったと気がつきませんか？祈りは神からの命令です。私たちは主から「祈りの人になりなさい、祈り続ける人になりなさい」と、そのように命じられているのです。

## 2. 霊的成長に不可欠だから : 「祈りとは何か？」を考えることが必要

二つ目に見たいことは、祈りは霊的成長に不可欠だということです。あなたの信仰が成長して行くためには祈りが必要なのです。今話したように、祈りのない信仰者に信仰の成長を望むことはできません。ある人々はこのように言います。「教会の霊的な状況はその教会の祈禱会によって明らかになる」と。私たちにとって最も大切なことは「神の前にひざまづくこと」です。そのことをこれから見ていきます。アメリカの神学者であり、また牧師であったR・A・トーレーはこのように言います。「本当の祈りの意味が分かった。祈りを聞いてくださるのは神であり、私たちは実際にその神の臨在の前に立ち、そのお方に求め、また、そのお方からいただくのであるという事実を理解したことで、私の祈りの生活が変わった。かつての私の祈りは単なる義務であり、ときにはそれはうんざりする退屈な義務でしかなかった。しかし、その時以来、祈りとはただの義務などではなく、人生における最も重要な特権の一つである。」と。皆さんは祈りを神から与えられた特権だと思っていますか？皆さんは祈りをしておられますが、もしかすると、トーレーが言うように義務でしておられませんか？食前の祈りのようなものです。だれかが見ていて「あっ、祈らなかつた！」と言われて慌てて祈るような、そのような祈りの生活を送っていませんか？先ほどから見てるように、祈りというのは信仰生活において成長のために不可欠なものです。私たちはこのことを理解するために、まず、「祈りとはいったい何か？」を正しく知ることが必要です。ごいっしょに見て行きましょう。

### ◎祈りとは何か？

#### 1) 主なる神との個人的な交わり

だから「特権」なのです。創造主であり、全能なる神と私たちは個人的に交わりがもてるのです。そのような幸いに私たちは与ったのです。だから、この神と個人的にいつでも交わることが出来る、その

ことを喜ばずです。神がいつでもあなたと時間を取ってくださる、その神は世界のすべてをお造りになり、そのすべてを治めておられる生ける真の神です。本来なら、私たちは心からこのすばらしい祝福を神に感謝するはずです。私たちは「私は主を愛しています」と言います。信仰者の皆さんお一人ひとりに尋ねると「はい」と言われるでしょう。でも、このように言えます。「主に対するあなたの愛、その愛の度合いはあなたの祈りに反映します。あなたの祈りを見ればあなたがどれだけ主を本当に愛しているのかが分かります。」と。どういう意味ですか？私たち人間どうしても、だれかを愛するとその人とできるだけ長く時間を過ごしたいと思いませんか？それが普通です。時間が足りない、もっと話したい、もっと時間を共有したいと思えます。しかし、話をするのができるのに数分で止めてしまうならどうでしょう？愛していると言ってもその愛を疑いませんか？「今は忙しいから後にしよう。」と、もし、そのようなならその愛を疑いませんか？このようなことはどうですか？自分の言いたいことだけを言ってさっさと帰ってしまうなら、愛していると言われても疑いませんか？恐らく、説明は不要でしょう。どこかに問題があるのです。

でも、よく考えると、それがあなたの祈りではないですか？「私は時間がないから祈れません。」と、それで「私は神を愛しています。」と言います。「いや、今忙しいです、月末で…。今忙しいです、年度末で…。だから、十分に時間をとって祈ることができません。」と。また、神に感謝することなく私たちの願いだけを並べてそれで「祈りました」と言います。神を愛している人、その人は間違いなく、愛する神との時間を楽しまます。その時間をもっと長くもちたいと願います。そして、神を誉め称えます。私たちはもう一度、自分の神に対する祈りを振り返ってみることが必要ではないでしょうか？神を愛していると言いながら、私たちの生き方は神を愛していることを証明するものかどうか、そのような生き方をしているのでしょうか？パウロが私たちに言うことは、「祈りは主なる神との個人的な交わりである」です。生きた真の神と個人的に交わることができる、それが祈りだと言うのです。

## 2) 主を誉め称える手段

詩篇 63 : 4には「それゆえ私は生きているかぎり、あなたをほめたたえ、あなたの御名により、両手を上げて祈ります。」とあります。詩篇 145 : 1には「私の神、王よ。私はあなたをあがめます。あなたの御名を世々限りなく、ほめたたえます。」と記されています。神のことを心から喜び、神のことを心から誉め称えている人は神に感謝を表わしたいと思えます。その一つ的手段として「祈り」があるのです。ですから、私たちは祈りをもって神に感謝を表わすのです。祈りをもって神に称賛を、誉め歌をささげるのです。このように私たちは祈りを通して私たちの神のすばらしさ、主が為されたすばらしいみわざを誉め称えます。

私たちの祈りは、私たちの願いごとを述べるだけではないのです。主の為してくださった恵み、そして、今日、神が私たちに与えてくださっている恵みに感謝するのです。祈りは個人的な神との交わりであり、誉め称える手段です。

## 3) 学びの場

そして、三つ目に「祈りは学びの場」です。私たちは祈りを通して大切なことを教えられるのです。私たちはこの主の偉大さを正しく知り、また、主のすばらしさを覚えるときに大切なことを学んでいきます。どうも私たちはある固定観念にとらわれています。例えば、目を閉じて腕を組んで祈らなければいけない、そうでないと祈りでないかのように思ったりします。しかし、大切なことは私たちの心です。皆さんにお勧めしたいことは、みことばを開いて、みことばを読みながら、そのみことばが教えてくれる神の真理を私たちが見出すときに、そのことを神の前に称えることです。「神さま、あなたはこんなにすばらしい方です。あなたはこんなにすばらしいことを為された。」と、そうして私たちは神を称えるのです。私たちは何となく祈りを中断することに抵抗があります。でも、ときには私たちは神のすばらしさを考えたときに、かつて歌った讚美歌がよみがえって来るかもしれません。好きな讚美歌が出て来るかもしれません。その賛美をもって神を称えることができるのです。

今日は見ませんが、私たちは「祈りの目的」についても学んでいきます。私たちはすべてのことをある目的のためにやっています。地上の生活も、クリスチャンとしての生活もそうです。みな同じ目的です。神の栄光を現わすためにしているのです。

私たちは神のすばらしさを人々の前に証していくのです。そのために私たちは神のすばらしさを称え続けていくのです。それはどのようにしてするのか？神のすばらしさをみことばからしっかり汲み取ることです。そして、そのすばらしい神を称えることです。そうすると私たちの祈りは1分2分の祈りから15分になり30分になります。そして、その祈りの時間が私たちにとても楽しみな時間になっていきます。私たちは祈りを通して多くのことを学ぶのです。五つのことを上げました。

### a) 「きよさ」を学ぶ

私たちが主を覚えるとき、この主の聖さ正しさを覚えるときに、自分自身が見えて来ます。私たちがこの神の前にいかに汚れた者であるかが分かって来ます。そのときに、私たちは自分の汚れを神の前に告白するのです。人から強制されてではありません。私たちは神の目を通して自分を見るときに、そこには罪に染まった自分、自分中心の自分を見ます。神の栄光よりも自分のことを考えている自分です。私たちはそうして主の前に犯した自分の罪を告白していくのです。私たちが主の前に静まるときに、そして、聖い正しい神を見上げるときに、私たちは聖さについて学んでいきます。主の聖さと自らの罪深さが鮮明になるからです。

## b) 謙遜を学ぶ

私たちは主の偉大さを知ることによって自分の愚かさ自分の弱さを知っていきます、そして、すべてのことにおいて主の助けが必要であることを告白するのです。少し考えてみてください。恐らく、ほとんどの皆さんは仕事や勉強、家事などに関わっておられますが、その中において自分のベストを尽くすことは大切です。与えられていることのすべてにおいて主の前に最善を尽くすことです。このようなご時世です。特に、ビジネスマンや受験生、彼らが口にするのは「余りにも忙しくて1分でも時間が惜しい」です。そのようなことを実際によく聞きます。「とても忙しいのです。本当に朝から晩まで…、残業もしなければいけないほど忙しいのです。」とよく分かります。しかし、気をつけなければいけないこと、忘れていることがあります。何でしょう？私たちはいついたれのために、また、何のために仕事や家事や勉強など、すべてのことをしているのかということです。

先ほども見たように、私たちはすべてのことを主の栄光のためにしているはずですが、私たちはすべてのことを通して、私たちのすばらしい主を周りの人々に明らかにしていこうとするのです。そのために生きている訳です？今、あなたは職場に遣わされています。とても忙しいです。でも、あなたがそこに遣わされている目的は、そこにあって主のすばらしさを人々に伝えるためです。学校にあっては、確かに、今勉強をしなければいけない。でも、その中にあって神があなたに望んでいることは、周りの人々に主のすばらしさを伝えて行くことでしょうか？そのために、この働きを為していくために、私たちは神の助けが必要なのです。主の助けがなければそのようなことを為していくことはできないのです。

マルチン・ルターにある人がこんな質問をしました。「明日の計画は何ですか？」と。ルターはこのように答えます。「仕事です。仕事です。朝早くから夜遅くまで。しかし、実際、私は初めての3時間を祈りにつぎ込まなければならないほど、為すべき多くのことがあります。」と。私たちがする答えとは少し違いますね。「しなければいけないことが山ほどある。だから、神さま、今日は祈りをパスさせて下さい。今日は5分も祈れません。1分しか祈れません。」と、私たちは忙しくなると神との時間を削ろうとします。しかし、信仰の勇者たちはその逆でした。忙しくなればなるほど、神との時間を余計に取ろうとしたのです。なぜなら、忙しさの中でも私たちの生かされている目的は変わらないからです。栄光を現わすためには神の助けが必要なのです。

考えてください、皆さん。確かに、一日は24時間しかありません。私たちが8時間労働するとして、その中の1時間を祈りに費やしたとします。普通に考えると、7時間で8時間分の仕事をこなすことはできません。だれが聞いても「その通り」と言います。しかし、私たち信仰者は違うのです。「神さま、7時間で8時間分の仕事をさせてください」と祈るのです。「主よ、私は8時間この職場にいて、私の語ることも私の為すことも、すべてのことがあなたに喜ばれるようにと願います。そのためにはあなたの助けが要ります。私がお祈りのように歩んで行くために、あなたの証を為すために、あなたの助けが要ります。そのためにあなたとの時間が必要です。しかし、私にはこれだけの仕事のタスクがあります。これだけの責任があります。主よ、どうぞあわれみをもって、この時間にこれだけのことがこなせるように助けてください。」と祈ります。世の中の人はこのような祈りを聞いて「おかしい」と言います。でも、私たち信仰者は「アーメン」と言います。恐らく、皆さんもそのようにして生きて来られたと思います。先ほども「お父さんの会」で話をしていたのですが、私自身その経験をしていながら、それを直ぐに忘れてしまうのです。神の前に「神さま、3時間しか眠れません。でも、3時間の睡眠で8時間休息したように、どうぞ、あなたが十分な休息をください。」と私たちは祈れるのです。だから、遊べるというわけではありません。私たち信仰者は、優先順位を考えると、神との時間が一番大切なのです。あなたがその日を充実して過ごすためにも、あなたがその日を神に喜ばれるように過ごしていくためにも必要なのは、神との時間なのです。神が働かなければ何も起こらないのです。しかし、私たちはその神を私たちの生活から横に追いやってしまっ、自分たちで何とかしようとするのです。だから、神が働けないのです。

私たちが神の前にひざまづくときに、私たちは主の前に謙遜になります。「主よ、私には助けが要ります。私は正しい動機をもってすべてのことをしたいのです。どうぞ、私を助けてください。あなたの

みこころに従って行きたいです。どうぞ、私を助けてください。」と。仕事においても、勉強においても、家事においても、介護においても、何においても神に喜んでいただくためには、また、神の栄光を現わすためにすべての機会を用いていただくために「主よ、あなたの助けが要ります。」と、このような告白をすることによって私たちは自分の弱さを認めているのです。私には神の助けが必要だということを知っているのです。そして、自分の弱さを認めることは正しいことだけでなく、主が望んでおられることです。私たち人間の問題は、主の助けが必要なのに、その助けを、そして、自分の弱さを認めようとしないところにあります。自分でできると信じ込んでいるところにあります。

だから、あわれみ深い主は、私たちに限界があることを悟らせるために、自分の弱さに気付くために様々なことを為されるのです。そうでなければ、私たちはいつまで経っても自分の知恵や力にうぬぼれているのです。ですから、祈りは私たちの弱さを神の前に告白する機会です。「私はすべてにおいてあなたの助けが必要です。」と、そのような歩みを為すときに、私たちはパウロと同じようにこのように告白をします。ピリピ4：13「私は、私を強くしてくださる方によって、どんなことでもできるのです。」と。パウロは「私は自分の知恵によって力によって経験によって、どんなことでもできる」とは言いませんでした。神の助けが要ると言います。

皆さんが主の前にひざまづいて祈るときに、そのように祈っておられますか？「主よ、私が今日この与えられた時間をあなたの前に賢く使うために、この大切な貴重な時間を有意義に過ごすために、どうぞ助けてください。」と。祈りは私たちに謙遜を教えてください。祈りを通して、私たちは砕かれていきます。

### c) 神への信頼を学ぶ

三つ目に、祈りを通して私たちは「神への信頼」を学びます。主のみこころが必ず成されることを信じて祈ります。もしそうでなかったら、皆さんの祈りは非常に弱いのです。私たちが主の前に立つときに、私たちは主が約束なさったことは必ず実現するという確信をもって祈るのです。たとえば、もう、私たちが見て来たように、主は「あなたを用いる」と言われました。それなら、私たちはその約束を受けて為す応答の祈りは「主よ、どうぞ、私を用いてください。」という祈りです。なぜなら、主が約束されたから、主が私を用いると約束してくださったから、その約束を信じて主の御手に自分を委ねるからです。「主よ、使ってください」と。

主は私たちに「必要を満たす」と言われました。すべての必要です。物質的な必要も、精神的な必要も、霊的な必要も満たしてください。あなたの必要をご存じである神は、あなたの必要を満たしてください。私たちはいろいろな必要を抱えています。肉体的な必要を抱えている人もいるし、結婚を祈っている人たちもいるし、いろんな課題を私たちは抱えています。祈りの課題があります。いろいろな必要を私たちは覚えています。私たちが祈るときに「こうして祈っているけれども、祈り続けているけれども、神さまは本当に答えてくださるのだろうか？」と、もし、そのような思いをもって祈っているなら、その祈りを神はお喜びになりません。私たちの祈りは、神が「必要を満たす」と言われたから「私はその約束を信じます。私の願っていることすべてが与えられるという保障はないことは分かっていますが、ただ、分かっていることは私の必要は必ず与えられるというその約束です。私は信じます。」であるはずで

そのような確信に満ちあふれた祈り、確信に基づいた祈りが必要なのです。私たちの祈りは、神のみことばというその真理に裏打ちされた確信がなければならぬのです。だから、私たちはみことばを読みながら、その中に記されている神の約束に立って祈るのです。たとえ、周りの人がどんなことを言おうとも、我々は神の約束を信じるのです。信仰者の皆さん、神があなたを使ってくれと言われたなら、本当にそのことを信じるのです。期待するのです。どのように神が私を使うのか？それが信仰です。

弟子たちがイエスのところに行って、あのヨハネと同じように祈りを教えてくださいと求めた箇所があります。一般的に「主の祈り」と言われていますが、実際には、イエスが弟子たちに教えられた祈りです。マタイの福音書6章です。その祈りを見て行くと、今私たちが学んでいるように、そこには確信があります。説明します。マタイの福音書6章9節から六つの願いが記されています。

### ◎マタイ6：9-13

#### (1) 「御名があがめられますように」9節 — あがめられるに値するお方

この祈りをささげている人はある確信をもって祈るのです。それは「主よ、あなただけがすべての被造物から崇められるに値するお方です。」と、その確信をもって祈るのです。なぜなら、この主以外に被造物から称賛を受けるに相応しい方はいないからです。ですから、我々がこうしてこの祈りを考えるときに「主よ、あなただけがあがめられるに値するお方です。あなただけがすべての被造物によって誉め称えられるに相応しいお方です。」と、その確信をもって祈るのです。

## (2) 「御国が来ますように」 10節 — 真の王

国が存在するというのはそこには王がいるのです。ですから、「御国が来ますように」という願いは、「主よ、あなたが真の王です」ということを確信しているのです。もちろん、これはより多くの人々があなたの支配下にあるように、つまり、救いに至るようにとの願いです。しかし、この祈りをするとき私たちが覚えなければいけないことは「主よ、あなただけが王です」というその確信をもっていることです。

## (3) 「みこころが天で行なわれるように地でも行なわれますように」 10節 — 真の主権者

「みこころが」ということばが出て来ます。どのような確信をもって祈るのでしょうか？主が主権者だということです。この方がすべての主権者なのです。この方のご計画だけが成るのです。この方が定められたことが成るのです。ですから、「あなたが主権者であり、あなたのご計画が成りますように。そして、あなたのご計画は必ず成ります。」という確信がこの祈りの背後にあるのです。

## (4) 「私たちの日ごとの糧をきょうもお与えください」 11節 — 真の供給者

この祈りの背後にある確信は「主は真の供給者だ」ということです。この方が私のすべての必要を満たしてくださいという確信です。それをもってこのように祈るのです。だから、先ほども話したように、私たちが疑いをもって祈るなら、神の前に喜ばれないのです。私たちが主の前に「主よ、必要を満たしてください」と祈るときに、主は必ず必要を満たすということに確信をもって祈るのです。その確信は私たちがただ思い込んでいるわけではありません。みことばという裏付けがあるのです。神の約束があるのです。ですから、その確信をもって祈るのです。

## (5) 「私たちの負いめをお赦しください」 12節 — 主は完全な赦しを与えてくださるお方

私たちが主の前に罪を告白するなら赦してくださいという確信です。その確信です。だから、私たちはこの方の前に心から自らの罪を告白しようとするのです。赦されることを知っているからです。

## (6) 「試みに会わせないで」 13節 — 守り導いてくださるお方

主は私を守り導いてくださるという確信です。どんなときにも主は私を守り導いてくださる。私を常に助けてくださり、私のために常に祈り続けてくださり、私といつものともにいてくださるのです。

ですから、私たちは主の前に祈るときに、このようなみことばの教えに立って、このような確信をもって主の前に祈るのです。「主よ、私はあなたのみこころが成されることを信じます。あなたがおっしゃったことがそのようになることを信じます。」と、私たちがこのように祈るときに、私たちは「私はあなたを信頼しています。あなたはそれに値するお方です。」と、そのような告白をしているのです。ですから、私たちは祈りを通して神に信頼することを学ぶのです。

### d) 従順を学ぶ

四つ目に、祈りを通して私たちは従順を学びます。というのは、私たちが祈りをするとき、主のみこころを喜んで受け入れようとするからです。もちろん、我々は様々なことを祈ります。いろいろな課題を神の前に持っていくことができます。私たちはそのことをまた具体的に見て行きたいと思いますが、私たちが祈りを神の前にささげるときに、「主よ、私の祈りはこうです。私の願いはこうです。しかし、どうぞ、あなたのみこころが成されますように」と、なぜ、このように祈るのでしょうか？それは、みこころが最善であることを知っているからです。みこころだけが主の栄光を現わすからです。だから、その最善を私たちは求めるのです。そして、私たちが「みこころが成りますように」と告白するとき、「私はあなたのみこころに従っていきます。私の願っていることと違う答えが出て、私はあなたのみこころに従っていきます。」と言っているのです。

ですから、このように祈ることも必要です。「主よ、このような病の人がいます。死の床にある人がいます。みこころなら、あなたはこの方を癒して元気にする事ができるお方です。私たちは実は、それを望みます。しかし、もし、あなたが召されることを選択されるなら、私たちはそれを喜んで受け入れることができるように私たちの内に働いてください。」と。私たちは祈りを通して、主の前に従順を学んでいくのです。

### e) 忍耐を学ぶ

最後に、私たちは祈りを通して「忍耐」を学びます。私たちは主のみこころのときを待つのです。恐らく、私たちにとってこれが最も難しいレッスンかもしれません。なぜなら、私たちは祈りを為すときに直ぐに答えを要求します。直ぐに答えを期待します。でも、信仰者の皆さん、私たちが主の前にみこころを求めるときには忍耐についても祈ることです。主が忍耐を与えてくださるように祈ることです。なぜなら、忍耐がないために主の最善を逃した者たちがたくさんいるからです。主の最善は主の最善のときに成されるのです。私たちに必要なことはその時を待つことです。ヘブル 10 : 36 に書かれている通りです。「あなたがたが神のみこころを行なって、約束のものを手に入れるために必要なのは忍耐です。」。

祈りを通して、私たちは大切なことを主から教えられます。私たちがこうして生きた神と個人的な交わりを楽しむことによって、自分の罪深さを神によって示され、その罪を告白することによって私たちは益々聖められて行きます。感謝なことです。主の前に静まることによって、私たちは自分のプライドが砕かれていきます。主の前に謙虚になって、私たちは主が喜ばれるような心の態度をもって主に従う者になります。私たちは祈りを通して主の約束を信じます。主に対する信頼を学んでいきます。そして、私たちは主のみこころに従うことを通して従順を学び、そして、みこころのときが最善であることを信じるゆえに、私たちは忍耐を学んでいきます。

祈りは、決して、私たちが欲しいものを得るための手段ではありません。私たちは祈りにおいても、神の栄光が現わされるために為すのです。それなら、私たちは主の栄光が現われること、みこころが成されることを期待しながらそのみこころのときを待ち続けていくことです。

どうか信仰者の皆さん、神とのこの個人的な特別な交わりの機会を、確かに、主が与えてくださったこのすばらしい特権を喜ぶ者になってください。感謝しながら、楽しみながら、すばらしい時間を主とともに過ごしてください。主はそれを喜ばれるのです。そして、あなたは祈りを通して、あなたの信仰は成長して行きます。主が与えてくださっている一つひとつのレッスンを通して、しっかりと学んでいくことです。そのためにもすべてのことを主の前に持っていくことです。「主よ、どうぞ教えてください。もっと私があなを愛する者として成長するように。もっとあなたに喜ばれる者として成長するために。どうぞ、私をあわれんでくださり、助けてくださり、学ぶべきレッスンをしっかりと学んで成長できるように。どうぞ、助けてください。」と願うことです。

祈りは楽しいものです。祈りはすばらしいものです。こうして、すべてを全能者のもとに持っていけるのですから。感謝をもって、喜びをもって、主との時間を過ごしてください。

#### 《考えましょう》

1. 「絶えず祈りに励んでいる人」を具体的に記してください。
2. 絶えず祈りに励むことが難しいのはどうしてでしょうか？
3. クリスマンにとって祈りが大切な理由を挙げてください。
4. 「絶えず祈りに励んでいる人」になるには、どうしたら良いでしょうか？
5. 「絶えず祈りに励んでいる人」になるためには、兄弟姉妹はどのように助け合うことが必要だと思いますか？